

今度ははっきり言えた

七月二十四日 金曜日 今度ははっきり言えた

午前一時から六時まで勉強。

蛙や虫が泣きやんだので、まわりが静かになったところで、僕も、蛙さんや虫さんと一緒に、ちよつと、寝ることにした。

次の起床は八時前。

下の居間へ行くと、まだ、弟の京太と幹夫は、仲良くおねんね。

その無心な、あどけない顔を見ながら、ふと思った。

「こころ感じぬもの、幸せか不幸か。もの思わぬもの、苦しみも喜びも覚えず。」

今日は、やりたいことがある。

部屋でくすぶっているのは

もう、これ以上、耐えられない。

今日こそ、彼女の家を探して、会いに行くのだ。

「まだ、九時まで、時間ある。」

そう思い、部屋に戻り、九時まで、

ちよつと、スピーチの原稿作成。

軽く朝食を取った。

母には言いづらかったので、一応、

「八瀬修学院の奥田とこへ行く」と言っ、ズボンをはきかえて、九時半ごろ家を出る。